

## 第2回川口市立グリーンセンター活性化基本計画検討委員会資料

令和元年10月9日

川口市  
(一社)日本公園緑地協会

## (1) 第1回活性化基本計画検討委員会の報告

ご意見	事務局回答
<b>①改修に向けての基本的方向について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や園芸など、グリーンセンターが独自に持っている要素は残しながら全体の構成を考えることが望ましい。</li> <li>・現状での良い所や評価の高い面をいかに継承していくかが重要。シニア世代を含めた新たなグリーンセンターの役割では“つなぐ”という言葉によって良い所を継承していくという点も検討してほしい。</li> </ul>
<b>②産業振興、公民連携等事業化の方向について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集客をいかにどう集めるかが重要。ハード面だけでなくソフト面を含めた検討が必要。</li> <li>・どのようなコンセプトを立てるか、ソフト面を含めた内容を組み立てていくことが重要だと思う。</li> <li>・有料無料の施設でどういうことをしているか、目的は何かなどファクターとして考えるべき。同種施設の情報が極めて重要である。</li> <li>・上手く活用する民間の誘導によって公園の活性化を図るという視点が継続的維持経費の確保だけでなく、プロセスそのものが地域の産業振興（特に緑化産業）につながるということに注目し、プランづくりにも配慮してほしい。</li> <li>・農業振興については、業としての農業ではなく、もう少し幅広い形、一般的には物販という形になると思うが、幅広いイメージで“農”を捉え、産業から広げてビジョンに加えると良いと思う。</li> </ul>
<b>③地域連携について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イイナパーク、花と緑の振興センター、川口緑化センターなどとうまく連携できると良い。</li> <li>・地域連携の観点からは、地域的なつながりだけでなく、各々の設立意義が異なるので機能分担の視点も必要である。各施設で持っている要素を掘り下げてみる必要もあると思う。</li> </ul>
<b>④駐車場、アクセス、交通対策について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場から入口までのアクセスの安全面の確保や駐車場不足に配慮してほしい。</li> <li>・平日夏場などの利用者が少ない時に、全く使わないスペースが大量に出来てしまう懸念がある。こうしたケースでは立体駐車場とするケースも多い。</li> </ul>
<b>⑤飲食・物販施設について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事スペースや植木関係、農産物が購入できる機能が入ると良い。</li> </ul>
<b>⑥その他施設等について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが野菜や果物がなっている姿を見られる機会や、子どもの手が加えられるような体験の場や機会があると良い。</li> <li>・雨天時でも長時間、屋根の下で時間を過ごせるようなエリアがあると利便性が高くなる。</li> </ul>
<b>⑦その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100万人目標については、子育て世代の割合が近年、減少傾向にあり、誘致圏内人口の世帯数のバランスからも検討した方が良い。</li> <li>・現在の正門の役割については、ここからバスで別の施設へ行けるなど周辺の施設との関係の中から上手く活用することも検討してほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況施設の良いところは残しながら、新しい部分と合わせて検討していく。</li> <li>・今後、子供が楽しい公園にしていきたいということを第一に、そこから持続するような親やシニア層にも来園していただけるような公園を目指したい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト面については、夜間開園や植物と実際にふれあえるワークショップなどを検討している。</li> <li>・同種の公園の事例なども含め今後、検討していく。</li> <li>・民間活用については考慮したい。今後、サウンディング等の市場調査を予定しており、市内業者を優先と考えているが、市外も含めて幅広く民間のアイデアや、参入条件などもヒアリングを行い前向きに考えたい。</li> <li>・農業の振興については今までの農家を支援するスタイルから、「見て・触れて・育て・食べる」などの体験を通じて、「農」に対する市民意識の向上を目指すことへと転換する方向で検討していきたい。</li> </ul>

## (2) 目標とする将来像

### - 1. 現況施設と計画施設の対比

機能	管理運営	計画の施設	機能	管理運営
		<b>新</b> 体験型植物展示施設	植物に興味を持ってもらう「きっかけ」を作る施設	民間or委託
熱帯温室、水生温室、サボテン温室の展示育成 ランの展示	直営 直営	→ 展示温室	展示育成温室(既存の大温室や観賞温室に替わる施設。規模縮小)	直営or委託
ネイチャー教室等の各種教室を開催 大集会室、ロビー、会議室、厨房で構成 結婚式場及びパーティー会場等の貸しホール事業 展示事業	ボランティア 直営、民間 直営	→ 多目的ホール	ワークショップ施設 大型の屋内フリースペースを設け、雨天時の休憩・飲食ができ、イベント・コンベンションなど多目的な機能を有した施設	民間or委託
ラン類の生産温室 熱帯植物の生産温室 サボテン、多肉植物、熱帯水生植物の生産温室	直営 直営 直営	→ 栽培温室	ビジターセンター公開温室に隣接する生産温室（規模を縮小）	直営or委託
		<b>新</b> フィールドアスレチック <b>新</b> 昆虫の森 <b>新</b> 昆虫観察コーナー <b>新</b> 水田（泥遊び） <b>新</b> レストハウス	既存の自然林や池を利用したアスレチックコースを整備 多様な昆虫を観察できる森として整備 昆虫と触れあえるコーナー 水辺の生物の観察、泥遊びを通じて自然環境を全身で味わえる場所 北エリア(芝生広場)にフードコート型の飲食施設。	民間or委託 民間or委託 民間or委託 民間or委託 民間or委託
中央道路沿いのメインの入場口(券売所)	委託	→ 北ゲート	入場ゲート。大型バス等の乗降のため導入路とロータリーを整備	民間or委託
新井宿駅からの受けとなる入場口(券売所)、売店が併設	民間、委託	→ 東ゲート <b>新</b> キッズカフェ	東門を改修し、券売所、売店、キッズカフェを併設 新たな東ゲートに、子連れ向けの憩いスペース(室内遊具や軽食喫茶等)を整備	民間or委託 民間
		→ 西ゲート	現況の正門に代わる、新たなメインゲートとし、周辺を整備	民間or委託
レストラン形態での飲食施設 花き類の販売	民間 民間	→ レストラン・物販	新たな西ゲート付近に配置し、来園者だけでなく、外部からの利用も可能	民間
全職員23名の事務所 庭園係と園芸研修係の職員の現場作業時の控え室 園芸相談を実施	直営 直営 非常勤職員	→ ビジターセンター・管理事務所	ビジターセンターは、インフォメーション、園芸相談等の機能を集約した施設。管理事務所は、既存の研修所控え室の機能を統合し、職員間の連絡調整の効率化を図る	直営・民間・委託
倉庫、作業所、車庫等が集約するエリア	直営	→ バックヤード-2	管理事務所と隣接し、管理業務の効率化を図る	直営or委託
ツツジの展示育成 市内緑化団体による28区画の庭園を展示 茶会等の貸出し。イベント時に使用 花菖蒲の展示育成 牡丹の展示育成 ツバキ、サザンカの展示育成 バラの展示育成 岩場を利用し、宿根草の展示育成 ハーブの展示育成	委託 委託 直営 直営 直営 直営、委託 直営 直営 直営	庭園-1 庭園-2 庭園-3 ツバキ・サザンカ棟 サクラソウ棟	既存梅園と隣接する庭園-2は和風庭園とし、既存の茶屋を移築 園内に点在していた植物を集約して栽培し展示（庭園-1～3） ツバキ・サザンカ及びサクラソウは庭園2に面した展示棟で栽培展示	民間or委託
大型遊具やミニ鉄道がある遊びエリア	委託	→ わんぱく広場	現況の機能は継続しつつ、キッズカフェ、水遊び場、幼児遊具を新たに整備	民間or委託
夏季のレクリエーション施設として流水プール場が開場	委託	→ 水遊び場	流水プール場の代替案として、わんぱく広場内に親水施設を整備	民間or委託
流水プール場で冬季のレクリエーション施設として仮設アイススケート場が開場	委託	→ 第4駐車場	流水プール場の跡地、駐車台数：248台、冬季は仮設アイススケート場	民間or委託
駐車台数：630台	直営	→ 第1、2、3駐車場	第1駐車場を拡張(+32台)、合計駐車台数：662台	民間or委託

## (2) 目標とする将来像

### -2 植物体験型展示施設のコンセプト

#### 【計画方針】

##### ①“緑化普及”のシンボル

近年、国内外を問わず、社会・生活のさまざまなシーンで緑と植栽の需要はますます高まっている。こうした情勢の中で、緑と環境をテーマとした植物体験型展示施設をグリーンセンターに設けることで、国内でも有数の植木の街である川口市をアピールする。

##### ④“映像産業振興都市”にふさわしい施設

“映像産業振興”は川口市の産業振興指針の柱のひとつであるが、植物体験型展示施設の展示手法に、最先端の映像技術とコンテンツを駆使した演出展示を導入することによって、川口市のブランド力の強化に貢献する。

##### ②川口市ならではの“教育文化施設”

中核市でもある川口市には教育文化施設が少ない、しかし“植木の街 川口”における、日本でも有数の来園者数を誇る「グリーンセンター」に新しい植物をテーマとした植物体験型展示施設をつくることで、川口市ならではの教育文化施設に位置づける。

##### ⑤“立地的優位性”を活かした“官民連携”的先進事例の場づくり

市内外からの注目を集める植物体験型展示施設をつくる上で、都心からも近い川口市は集客力において優位性の高い立地にあるといえる。その立地を活かし、多くの市内民間企業との連携も視野に入れた集約・収益性の高い施設を目指す。

##### ③“若者・子育て世代”の移住・定住促進への寄与

若者世代の定住を促進するため、やがて子育て世代となる若者たちが住み続けたくなるような、子育てに魅力あふれる空間が求められる。そのため、子どもからファミリーが楽しんで過ごせるグリーンセンターに更に学びの要素を持った植物体験型展示施設を設けることで、若者世代・子育て世代への訴求力を高めていく。

## (2) 目標とする将来像

### -3 自然体験アスレチックゾーンのイメージ

対象範囲：つつじ山、芝生広場西側、北端の樹林地等の約 2.2ha を対象とした範囲

整備概要：

- ・つつじ山の改修により芝生広場を拡張

- ・未利用地の北側樹林地内に、アスレチック系遊具を配置し、新たな遊びの場を整備

整備効果：

- ・これまで利用者が少なかった雑木林を活性化し、グリーンセンターに新たな魅力を創出します。

- ・わんぱく広場に集中していた利用者を分散し、公園全体の回遊性を高めます。

#### ①交流ヘルスゾーン

自然に遊びの要素を組み込んだアクティビティのメニューを用意し、遊びを通じた健康増進と多世代間交流の場とします。

#### ②森探検ゾーン

木々の間に自由に歩いたり、跳ねたりしながら遊べるアスレチック要素の高い遊具を斜面樹林地に設置します。また自然の森を散策したり、昆虫とのふれあいを体験できる遊び空間とします。

#### ③イベントレクリエーションゾーン

樹林地に展開する遊びアイテムの中心を成す芝生広場は、活動の合間の休憩や様々なイベントの場とします。

